

## ブタインフルエンザに対する漢方エキス剤と抗インフルエンザ治療薬の併用経験

武田クリニック 院長 武田 恒弘

### キーワード

- ブタインフルエンザ
- 漢方エキス剤
- 抗インフルエンザ薬

2009年に国内で感染拡大したブタインフルエンザに対して、当院では漢方薬と抗インフルエンザ薬で併用治療を行った。その結果、1) 発症症状は体質や季節によって異なっていた 2) 初期症状は主に4つの病型に分類された 3) 漢方薬と抗インフルエンザ薬の併用治療は有効かつ安全であった、という知見を得たので、症例を呈示しつつ報告する。

### 対象と方法

2009年7月末から2010年2月中旬までインフルエンザ迅速検査キットでA型陽性で、臨床的にH1N1ブタインフルエンザと診断した連続170症例を、漢方薬とノイラミニダーゼ阻害薬の併用により治療した。症状によって、抗生剤、ステロイド点滴、吸入ステロイド薬などを併用した。

治療方剤は、初期症状により選択した。

効果判定は、著効：第2病日にほぼ37度以下に速やかに解熱し症状も著明に改善、有効：第2病日に解熱傾向になったが症状軽減がやや弱かった、不良：第2病日も症状軽減が得られず高熱が継続、遷延：第2病日以降解熱したが咳症状が遷延、と分類した。

### 病型と治療方剤の選択

初期症状は主に4つの病型に分類された。初期症状による治療方剤の選択は表に示すとおりであった。

表 病型と治療方剤の選択

I型	発熱と自汗のみ	小柴胡湯+白虎加人参湯
II型	発熱、軽度の寒気、関節痛、頭痛、咽頭痛	葛根湯+白虎加人参湯もしくは小柴胡湯加桔梗石膏
III型	発熱、咳	五虎湯+小柴胡湯
IV型	発熱、咳、痰、鼻汁	五虎湯+小青竜湯+小柴胡湯
その他	鼻汁型、鼻閉型	

I型からIII型は風熱症状、IV型は寒熱混合症状と分類される。

### ブタインフルエンザ病型の季節性推移

表のとおりブタインフルエンザを4つの病型に分類すると、病型は季節とともに推移し、10月まで

はII型、III型の風熱症状を多く認めたが、11月以降はIV型の寒熱混合症状が大半を占めた(図1)。この推移をI型からIII型までの風熱症状とIV型の寒熱混合症状で比較すると、10月までは風熱症状が多く、11月以降は寒熱混合症状が多くなる傾向が顕著だった(図2)。

図1 初診時病型月別推移

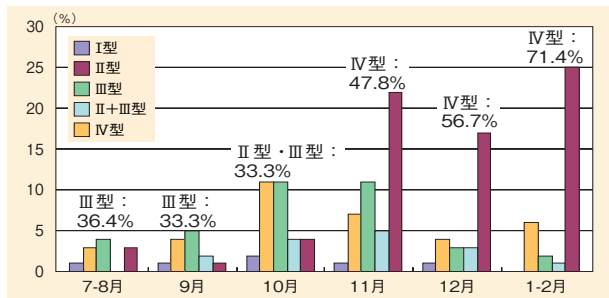
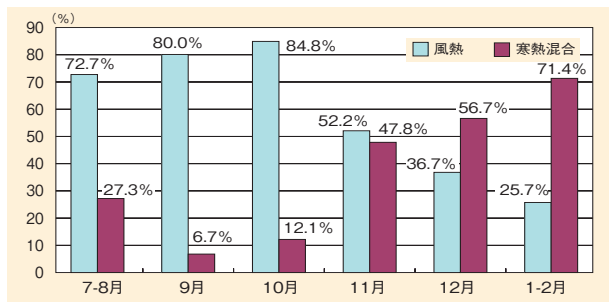


図2 風熱症状と寒熱混合症状



### 結果

著効56.5%、有効20.6%、遷延12.4%、不良10.6%で、著効・有効を合計して77.1%と良好な成績を示した。第1病日から第2病日への平均体温推移は、著効37.9度→36.5度、有効37.8度→37.1度、遷延38.1度→36.7度、不良38.2度→38.6度だった。平均治療日数(投薬

期間)は、著効 $6.5 \pm 1.6$ 日、有効 $8.0 \pm 1.8$ 日、不良 $9.1 \pm 2.8$ 日、遷延 $17.6 \pm 6.8$ 日だった。

## 症 例

以下、著効例を呈示する。

### 症例1：I型症例：7歳、男児、体重25kg

前日夜から倦怠感あり、翌朝発熱し15時半受診。来院時体温38.5度。症状は発熱のみ。皮膚やや湿。過去にオセルタミビルリン酸塩(以下、オセルタミビル)服用歴あり、異常行動認めなかったため、オセルタミビルドライシロップ処方の上、白虎加人参湯1回4錠と小柴胡湯1回6錠を当日に服用し、翌朝平熱。第2病日は同処方分2で服用。第3病日に軽度咳が出ていたため、五虎湯6錠分2を3日間処方し、治療終了。オセルタミビルは3日間、クラリスロマイシンドライシロップは5日間服用した。

### 症例2：II型症例：52歳、男性

前日夜に寒気と咽痛を伴い体温38.2度。非ピリン系感冒剤2回服用し、翌朝10時受診。体温37.5度、寒気軽度で咽痛強く、発汗あり。脈診：浮滑数。オセルタミビル併用の上、葛根湯+白虎加人参湯分2で処方直後と5時間後の2回服用。当日夜と第2病日朝に小柴胡湯+白虎加人参湯分2で服用。当日夜、体温は38度へ一旦上昇したが、翌朝は36度台。第2病日15時半再来時体温35.7度。のどにひっかかるような咳がでるため五虎湯9錠、麦門冬湯、小柴胡湯分3で3日間服用し、治療終了。オセルタミビルとガレノキサシンメシル酸塩水和物を5日間併用。

### 症例3：III型症例：13歳、女性

前日から発熱し、体温朝37.6度、昼39度、夕方40度。翌朝体温37度で咳も出てきたため受診。皮膚やや湿、脈診：沈緩数。ザナミビル水和物併用の上、五虎湯+小柴胡湯分2で処方。その後解熱傾向で、翌日15時半受診時の体温は36.5度。咳がまだ残存。錠剤を希望され、五虎湯9錠分3、小柴胡湯12錠分2で処方。第5病日再来時、痰のからむ咳が残るため、五虎湯9錠分3、小青竜湯12錠分2を4日間処方し、治療終了。クラリスロマイシン5日間併用。

### 症例4：IV型症例：14歳、男性

2日前から咳、痰、鼻汁が多くなり発熱し、9時半受診。体温37.3度、皮膚やや湿。脈診：浮滑数。痰のからむ咳と鼻汁が多い。呼吸音はきれい。ザナミビル水和物併用の上、五虎湯+小青竜湯分2(第1病日は10時半と夜)、小柴胡湯12錠分2(第1病日

は昼、夜)。当日夜体温は38.5度に一旦上昇したが、その後解熱し、第2病日は平熱。第3病日再来時、咳、痰、鼻汁はかなり改善。五虎湯6錠分2、小青竜湯+小柴胡湯分2を2日間処方し、治療終了。クラリスロマイシン5日間併用。

### 症例5：IV型症例(メチルプレドニゾンコハク酸エステルナトリウム併用例)：30歳、女性

2日前から咳と体温37度台の発熱。前日から咳が悪化、発熱し、体温38.5度。翌朝8時半受診し、体温38.7度。皮膚やや湿。咳、痰、鼻汁に呼吸音で喘鳴あり。SaO<sub>2</sub> 98%。胸部レントゲンは異常なし。メチルプレドニゾンコハク酸エステルナトリウム40mgとセフトリアキソンナトリウム2g点滴施行。ザナミビル水和物併用の上、五虎湯+小青竜湯分2と午後に分3タイプの柴朴湯を1回に2包服用。ツロブテロールテープ1mg貼付。当日夜から症状改善傾向あり、第2病日15時半再来時は、体温36.5度で軽度の咳と頭痛のみ。五虎湯9錠分3と小柴胡湯+川芎茶調散分2へ変更。第5病日には咳、頭痛改善し、軽度の倦怠感のみ。柴胡桂枝湯分2を3日分処方し、治療終了。クラリスロマイシン4日間併用。

## 考 察

インフルエンザの漢方治療では、弁証されることなく病名漢方が先行して麻黄湯が処方される傾向が懸念される<sup>1)</sup>。今回の検討では、ブタインフルエンザの発症症状が体質や季節によって異なる傾向がみられた。これは、インフルエンザの漢方処方は、寒気・発汗の程度や脈診などから弁証して決定すべきであることを示唆している<sup>2)3)</sup>。また処方にあたっては、風邪薬や解熱剤の服用による発汗で受診時に陰虚となっていることがあるので注意を要する。経過によって処方の変更が必要であり、喘息などで呼吸器症状が悪化している場合は、ステロイド点滴やステロイド吸入を併用する。小児などで顆粒剤の服用に抵抗がある場合には、錠剤の服用も有効である。報告<sup>3)4)</sup>や治療経験から考慮すると、症例によっては漢方薬のみで治癒できる症例が存在すると思われる、今後の検討課題である。

### 【参考文献】

- 1) 池野一秀：小児科における新型インフルエンザ治療 漢方と最新治療 19：p111-117, 2010.
- 2) 武田恒弘：H1N1ブタインフルエンザに対する漢方薬と抗インフルエンザ薬との併用治療経験 漢方と最新治療(in press).
- 3) 渡邊善一郎：新型(A/H1N1)インフルエンザにおける治療結果と治療方針の提案 漢方の臨床 10：p1663-1668, 2010.
- 4) 森 由雄：新型インフルエンザに対する漢方治療の経験 漢方の臨床 10：p1655-1662, 2010.